

追記「彫工

小松光春について

No.379

令和三年の『広報もばら』新年号に、小松光春について発表したところ、沢山の市民の方から貴重な情報が多く寄せられました。光春が市内に住んでいたということが事実

られます。伊勢海老は尾を曲げ、今にも飛び出しそうで生き生きとしています。その仕様は非常に写實的に表現されています。

この作品は昭和十三年頃、市内にあった海鮮問屋に光春が百円で依頼されて彫ったものでしたが、どういう訳か受け取りを断られてしまったため、八十円位で買い受けたそうです。当時の一ヶ月の給料が七十円位だったそうですから、決して安いものとはいえません。



次に紹介するのは「大黒天と恵比須」の木彫り像です。台座に「岸上甚五郎源義信十八代血脈小松光春作昭和二十五年一月甲子日」と墨書されています。小松光春の

×百十六センチで、図柄は「伊勢海老に鮑と栄螺と蛤」が配され、伊勢海老の図柄はこれまで見たことがなく大変珍しいものでした。伊勢海老の長い髭先にはバランスよく配置された鮑や栄螺、蛤が見

血脈が左甚五郎に繋がると思ってもよいかもしれません。甚五郎と言えば日光の眠り猫がとて有名ですが、甚五郎の人物像については諸説あります。ここでは甚五郎は泉州(現大阪府)和泉市出身の岸上義信ということになります。光春の系譜は文政(一八一八〜二九)の頃、岸上家より分家し、小松姓を名乗ったと言われ光春はその十八代目の系統となります。

この大黒天と恵比須像は丁度手のひらサイズのもので、光春からプレゼントされたそうです。やがて、光春は藻原寺近くに引越しましたがその後の行方は不明です。



茂原市文化財審議会委員

片岡 栄

問合せ

生涯学習課(9階)

TEL 15559 FAX 16007

文芸コーナー

向日葵の夏

中山 省吾

庭に植えた数本のひまわりが順調に育っている。茎は直立不動で天に向かって真っすぐに延びている。

時折、風が葉を揺らし葉に付いている蝉の抜け殻が踊っているように見える。

数日前までは蕾だった花は日ごとに大きくなっているようだ。

よく見るとどの花も同じ方向を向いて咲いている。何かを求めて同じ方向を向いているようにさえ見える。

すっかりとした意思疎通があるようだ。整列した兵隊のように見事に足並みが揃っている。

今年は6月中旬に梅雨が明けてしまった。長い夏になりそうだがこのまま威風堂々とこの夏を謳歌することを願うばかりだ。また風が吹いてきて涼しげに葉を揺らし始めた。

◎選評 齋藤正敏

庭に植えた数本のひまわりが順調に育っている。日ごとに大きくなるひまわりだが良くみると何かを求めて同じ方向を向いているようにみえる。しっかりとした意思疎通があるようにみえる。生きることへの希望と願いが込められているのでしょう。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※詩の原稿送付先(直接選者)へ 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 齋藤正敏宛。

詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。

「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

